

議会運営委員会

日 時 平成 2 5 年 8 月 2 2 日 (木) 午前 1 1 時 1 0 分 ~
場 所 第 3 委員会室

1 継続審査議案の施行日の変更について

	委員会	本会議	変更の方法
	否 決	否 決	必要なし
	否 決	修正可決	本会議で修正の動議
	修正可決	修正可決	委員会で修正の動議

2 議案審査 (6 月定例会議第 2 号議案「議員報酬条例改正」)

3 決算特別委員会

○事務事業評価について

4 その他

○当面の日程

8 月 22 日 (木) ・ 23 日 (金) 20:00 ~ 議会報告会
23 日 (金) 10:00 ~ 環境厚生 (決算) 分科会
26 日 (月) 10:00 ~ 総務文教常任委員会 ・ (決算) 分科会
28 日 (水) 10:00 ~ 産業建設 (決算) 分科会
29 日 (木) 10:00 ~ 広報広聴会議 (広聴部会)
9 月 2 日 (月) < 招集告示日 > 10:00 ~ 議会運営委員会
13:30 ~ 会派会議

事務事業評価【平成25年9月定例会決算審査】

【目的】

決算審査において、実施された事務事業の経済性、効率性、有効性などを議会が議論、評価することで、その結果を今後の事務事業の点検、改善及び予算編成に活かし、より効果のある市民福祉の向上に資する事務事業の実施を目的としています。

【フロー】

評価対象事務事業 選定及び調査

→評価対象とする事務事業を各分科会で選定します（3事務事業程度）。対象事業の調査を行い論点を明確にします。

7～8月

各分科会

評価対象事務 事業通知

→選定した評価対象事務事業を執行機関に通知します。執行機関において事務事業評価資料を作成されます。

8月末

議会→執行機関

事務事業 評価

別紙『事務事業評価』参照

※執行機関から議会への資料提出は9/20頃

→資料に基づき執行機関の説明を受け、事務事業の評価、改善、提案等まで議論を行い合意形成を図ります。

9月 25～30日
(分科会審査期間)

分科会
(日程は各分科会で決定)

評価結果まとめ

→分科会評価を基に委員会として評価結果をまとめます。改善、提案等を附帯決議とする場合には委員会で議決し、本会議に提案します。

10月 1日(火)
4日(金)

委員会議決
本会議議決(附帯決議の場合)

評価結果送付

→執行機関へ評価結果を送付します。

定例会閉会后

議会→執行機関

改善等対応 の報告

→執行機関では提言に対して市政運営の改善、予算編成での反映等を検討し、その結果を予算特別委員会等で議会に報告されます。

当初予算審査時等

執行機関→議会

事務事業評価

目標

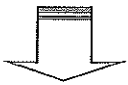
各分科会で決定

担当部・事務事業ごとの評価フロー

(担当部入室)

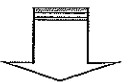
担当部説明

担当部から説明を受けます。
(事務事業評価資料に基づく)



質疑・個人評価

評価の判断材料として、説明に対する質疑を行います。
委員の意見を出し合い、自由に討議を行います。
質疑・討議を行いつつ各委員が個人評価を行います。(個人評価表の記入)



まとめ

個人評価から分科会の評価結果をまとめます。
○評価項目(休止、廃止、継続等)の決定
○評価に至った理由、提案等
※ほぼまとまった段階で、担当部の意見を求めます。

(担当部退室)

平成24年度決算事務事業評価資料(H25.9審査)

					担当課	
一般 会計		款		項	目	
対象事務事業 業	事業名				施策概要	〇〇ページ
目 的	事業の目的は何か					
手 法 ・ 活 動 実 績	目的達成のために行った 手法は何か	☐ 直接実施 ☐ 業務委託 ☐ 指定管理 ☐ 補助金支給 ☐ その他()				
	目的達成のために行った 活動とその実績は何か					
成 果	目的に対する成果は何か					
コスト	事業に係る経費は	内訳	金額	説明		
		計	0			
	事業に携わった職員数は	0人	0			
		合計 0				
財源	上記経費に対する財源(特定財源のみ)は	内訳	金額	説明		
		計	0			
課 題 ・ 方 向 性	今後の課題は何か					
	今後の方向性はどうか					

事務事業評価表

評価対象事務 事業名	
---------------	--

区分	No.	評価の視点	評価								
目的	1	目的設定は妥当である。									
	2	公的関与の範囲は適切である。 (市がやるべき事業か。)									
手法・活動実績	3	手法は適切である。									
	4	活動実績は妥当である。									
成果	5	成果の取り方(指標)は適切か。									
	6	十分成果があらわれている。									
コスト・財源	7	コスト削減の余地はない。									
	8	財源は適切である。 (受益者がある場合には、受益者の費用負担は適切か。)									
課題・方向性	9	公平性が評価できる。 (市民受益の範囲は公平か。)									
	10	他事業との類似性、重複はない。									
	11	事業を休止・廃止した場合の影響が大きい。									

★評価は○△×を記入

委員会論点	事前に分科会で整理
-------	-----------

評価	休止 廃止 継続 (現状維持 改革改善 拡充) その他()
意見 改善点など	